



スタッフ



マンモグラフィ検診について

放射線技師 宮本 宏実
片桐 江美子

現在 日本人女性の乳がん発症率は約20人に1人と言われていました。

アメリカ人女性の乳がん発症率は約8人に1人。そしてアメリカ人の乳がん健診の受診率は72.5%です。その高い受診率により、米国では乳がんにかかる率は上昇しているにも関わらず、死亡率は減少しています。

それに対して日本はどうでしょう？わずかに13%しか受診率がありません。(名古屋市の受診率はたったの9.3%)そのため発見が遅れて、年間1万人を超える方々が乳がんで亡くなられています。早期発見であれば乳がんは恐ろしい病気ではありませんし、乳房を残すことも可能です。

マンモグラフィは通常、乳房を縦斜めに平らに伸ばして圧迫板に挟んだ状態で、横から撮影する方法と、上下に圧迫して上から写す方法の2方向撮影します。撮影の際、ギュッと圧迫することで、乳房の厚みが薄く伸ばされ、診断に有効な画像が得られ、被ばく線量も軽減できるのです。しかしこの圧迫により、“マンモグラフィは痛い”というイメージが強くなるようですが、痛みは乳房の形、大きさ、張り具合等によって個人差が

あります。ただ、生理前のように乳房が張る時期は避けたほうが痛みの軽減につながります。(生理前であっても画像上、影響があるわけではありません)あと、よく受ける質問の1つに“胸が小さいですが大丈夫ですか？”とありますが、大きさは関係ありませんので安心して受診してください。

まれではありますが、20代からでも乳がんの患者さんはいらっしゃいます。20代から乳房を触って関心を持つことが大事です。乳がんは初期症状が特にありません。“私は大丈夫”という考えは捨て、自分の乳腺にまんべんなく触れ、40歳以上の方はとにかく1人でも多くの方が乳がんを命を落とすことのないよう ぜひ検診を受けてください。

当院はマンモグラフィ精度管理中央委員会より認定を受けた施設で、検査には女性技師が必ず対応しています。検査についての質問、不安なこと、気になることなどがありましたら、何でもお気軽に 放射線科の私たち女性技師を尋ねてきてください。

医療ソーシャルワーカーをご存じですか？ MSW 竹内 里夏

突然の入院、病気の告知は私たちの生活にとって大きな出来事です。時には、家族全体の生活を揺るがすことにもなります。自分や家族の力で問題を解決できればよいのですが、困難な場合もあると思います。医療相談室では、医療ソーシャルワーカーが入院、療養に伴う生活問題について相談に応じています。問題を整理し、解決方法を一緒に考えさせていただきます。

現在、3名の医療ソーシャルワーカーが相談援助を行っています。ご相談の内容、プライバシーは守りますので、療養上困っていること、不安なことがありましたら、一度お気軽にご相談下さい。相談は無料です。

なお、原則予約制としておりますが、可能な限り当日のご相談にも対応いたします。相談希望の方は、事前にお電話を入れていただくと、お待たせせずにお話を伺うことができます。

- ◇突然の入院で医療費、生活費が心配
- ◇身体障害者手帳を取りたい、障害者手帳を取る

とどんなサービスが利用できるの？

- ◇介護保険を利用したい、ヘルパーや介護保険施設を利用したい
- ◇退院後の療養先を探したい
- ◇休職中の所得保障制度について知りたい
- ◇体に障害が残り、車いすでの生活になりそう。どんな制度が利用できるの？
- ◇病気になるなんて初めてで、何もわからず不安

～医療相談室(よろず相談室内)のご案内～

- 【場 所】 診療棟1階、よろず相談室内(救急外来受付前)
- 【相談時間】 月曜日～金曜日：午前8時15分～午後5時
- 【休 日】 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)
- 【電話番号】 052-652-5511(代表)内線3031
交換に『医療ソーシャルワーカーに相談をしたい』とお伝え下さい。
- 【担当者】 竹内、森下、小貝

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。